

第1回庄原市行政評価委員会 会議録（摘録）

1. 開催日時 平成26年9月1日（月）
開 会：14時00分
閉 会：15時50分
2. 開催場所 庄原市役所 3階 防災対策室
3. 出席委員 荒木和美 委員（委員長） ・ 積山豊通 委員 ・ 山根英徳 委員
齋藤万由美 委員 ・ 山岡弥香 委員 ・ 小島由佳利 委員
4. 欠席委員 加藤広行 委員（副委員長）
5. 出席職員 市長 木山耕三
保健医療課長 森岡 浩
児童福祉課長 中原博明
児童福祉課あんしん支援係長 定光康江
企画課長 兼森博夫
企画課政策推進係長 中田博章
企画課政策推進係 横山敬之
企画課政策推進係 松尾佳代
6. 傍聴者 2名
7. 会議次第 別紙のとおり
8. 会議経過 別紙のとおり

第1回庄原市行政評価委員会次第

平成26年9月1日（月）14：00から
庄原市役所 3階 防災対策室

1. 開 会
2. 市長あいさつ
3. 委嘱状交付
4. 委員長及び副委員長の選出
5. 委員長あいさつ
6. 議事
 - (1) 「庄原市の行政評価」について
 - (2) 「平成26年度の評価対象事業」について
 - (3) 評価対象事業の事業内容の説明について
 - ① 医療従事者育成奨学金貸付事業
 - ② 出産祝い金交付事業
7. その他
8. 閉 会

会 議 経 過

1. 開 会

2. 市長あいさつ

行政評価は、市が実施している事務や事業に関し、「住民にとっての効果は何か」「当初期待したとおりの成果は得られているか」などの視点をもって評価・検証し、その結果を次年度以降の事業実施に活かしていく手段のひとつでございます。

したがいまして、新たな事業を「する・しない」ではなく、既存事業について「続ける・やめる」又は「見直す」ことについての判断材料となります。

本市におきましては、本年度から本格実施するものでございまして、「市民の参画を得て評価を行い、その結果を公表する。」とのまちづくり基本条例の趣旨に則り、インターネットを活用した市民意見の聴取やこの行政評価委員会を設置し、多角的な視点からの意見を参考とし、事業方針を決定こととしております。

いずれにいたしましても、委員の皆様のお力添えをいただき各事業を厳正に評価し、最適な行政運営を行うとともに市民の皆さんの理解と満足度を高めてまいりたいと考えております。

それぞれの視点から忌憚のないご意見、ご提案を賜りますよう、お願い申し上げ、開会のご挨拶といたします。

3. 委嘱状の交付

4. 委員長・副委員長の選出について

指名推薦により、委員長に荒木和美委員、副委員長に加藤広行委員を選出

5. 委員長あいさつ

委嘱されたこのメンバーで、事業の趣旨を^{まっ}全うできるよう、わかりやすい言葉でわかりやすい議論をしていきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

6. 議事

(1) 「庄原市の行政評価」について

— 【資料No. 1】により事務局が説明 —

(質疑なし)

委員長：質疑がないようであれば、次の議事に進みますが、後ほど振り返っての質問も受け付けます。

(2) 「平成 26 年度の評価対象事業」について

— 【資料No. 2・3】により事務局が説明 —

委員：数多くの事業を実施されている中で、第 1 次評価で 50 事業を第 2 次評価で 10 事業を選定しているが、どのような視点をもって選定したのか。

事務局：事業課であれば補助事業等の評価対象事業が多く、管理部門では事業数そのものが少ないが、第1次評価は、担当課に偏りがないように最低でも1事業は選定するなど、まんべんなく選定している。視点としては、市民から改善要望があった事業、事業開始から年数が経過し、見直しを検討する時期にあると思われる事業を選定している。第2次評価は、担当課が評価をいただきたいと思う事業や担当課は現行どおりと評価している事業であっても他の課長からの意見で評価を行うべきとされた事業を選定している。

委員長：事業選定の段階で考慮された住民からの改善要望などもオープンになっていけばいいと感じた。資料3の事業の中から評価委員会で評価対象としたい事業があれば、盛り込むことも可能であるので、事業概要を確認いただき次回の会議で委員のみなさんから提案をいただいて調整したい。

(3) 評価対象事業の事業内容の説明について

① 医療従事者育成奨学金貸付事業

— 【評価シート・パンフレット等】により事務局が説明 —

委員：制度の特徴で住所要件は求めないとあるが、実績で庄原市内の在住者が何名いるのか。

事務局：平成26年度において、医師6人中3人、看護師82人中62人が市内在住者である。

委員：貸付者の選定時に市内に勤務するとの意思確認はどのようにしているのか。

事務局：申し込み時にその旨を記載する項目がある。また、面接時にも確認をしている。

委員：市の貸付事業と広島大学のふるさと枠の重複利用は可能か。

事務局：重複利用はできない。

委員：市の貸付事業を利用したから医療関係の学校に通えたなど、実際に経済的支援の効果があるのか。

事務局：医師に限って言えば、世帯の経済的背景が異なり一律にはいえませんが、非常に助かったという声も聞いている。

委員長：見直すということであれば、利用者の声も把握して検討したいところである。

委員：この事業を認知されていない看護学生もいると思うが、どのように周知をされているのか。

事務局：市内の高等学校へパンフレットを持ち込んでいるほか、行政文書(回覧文書)やホームページに掲載している。

委員：免除の制度はあるが、事情があり返還の必要が生じた場合の対応について伺いたい。

事務局：当初はあまり想定しなかった事項であるが、既に在学中に辞められるなどにより返還が必要な事案が発生しており、債権管理を行っている。現在、亡くなられた方をあわせて11人が返還中である。

委員：債権管理に時間と手間がかかっており、また、貸し付けたお金が返ってこない可能性もあり、いい制度であるが課題もある。

委員：高等学校にパンフレットを持ち込むとのことであったが、その際に看護学校等への進学者数や利用率、就職時に市内の医療機関の求人予定枠を調査し、募集時点で希望されても市内に就職できないという状況にならないように調整する必要があるのでは。また、ニーズを把握し、ニーズが低いのであれば、縮小・事業終了の選択肢もあるかもしれない。

事務局：貸付決定段階の面接で面接官に医師会・庄原赤十字病院の関係者も入っており、100%担保されている訳ではないが、ある程度求人枠・採用基準等も考慮した運用がされている。

委員：評価シートについて、評価分布欄の記載の数字について確認したい。

事務局：例えば、医療従事者育成奨学金貸付事業の優先度の項目であれば、Aが9人、Bが6人、Cが2人であり、Aが+1、Bが0、Cが-1となり、総回答数が17人であり、 $(9 - 2) \div 17$ で小数点以下を四捨五入し、0であり加重平均をするとB評価となる。

委員長：同じく評価シートの評価委員会欄については、委員会としての総意を導かないといけないということでもいいか。また、それぞれの委員の意見も記載され公表されるのか。

事務局：委員会としての評価をまとめていただき、各委員の意見も文面も含め公表する。

委員：評価シートの評価項目中、同じ分野での優先度を評価するための判断材料として、同じ分野にどのような事業があるのか把握しないと感覚での評価になるのではないか。同じ分野での比較ではなく、事業全体の中での比較とし、医師の確保であれば優先度が高いなどの判断ができるのではないか。

事務局：事務局としては4つ程度の分野で考えているが、次回までに各分野の事業名のみとなるかもしれないが一覧をお示ししたい。なお、事業全体の中での比較となると福祉分野と産業分野の事業の比較は難しいと考えるので、同じ分野での比較とさせていただいている。

委員長：限られた時間であるので、本事業についてはこの程度に留め、質問等があれば随時、事務局へメール等で質問や追加資料の要求も可能であるので、委員会での質問は以上としたい。

② 出産祝い金交付事業

一 【評価シート等】により事務局が説明 一

委員：私も以前給付を受け非常に助かったが、第1子、2子、3子以降で金額が異なることに不公平感を感じる方もいる。地域通貨は、子どもの将来のために貯えておきたい場合に有効期限の関係で課題があるのではないか。出産直後に転入し対象とならなかつたり、支給後すぐに転出された方も実際に知っており、定住期間が何年以上などとする要件の見直しも検討すべきでは。

委員：今後の出生数の見込みは。

事務局：合併時には年間300人程度の出生数であったものが、240、250人に減少しており、減少傾向にある。

委員：現在発行しているプレミアム付地域振興券の販売状況は多く買われているのか。

事務局：プレミアム付地域振興券は、商工会議所等が発行しているものであり、有効期限も半年程度となっているが、行政が発行する場合は有効期限も定めがないと聞いている。なお、地域通貨にすると加盟店の登録や換金業務など新たな事務負担が生じることになる。この事業の目的をどのように設定するかを検討する必要があり、現在は市内の出生をお祝いするという目的であるが、地域通貨にすると、さらに商業の活性化も目的に加わる。

委員：少子化が深刻な現状があり、経済と少子化対策は分けて考えるべきではないか。

事務局：本事業だけでなく、個人給付型の補助金等を全体的に地域通貨にできないかという検討も市内部で行っている。

委員：プラモニの意見は多様な意見があり、評価を行う上で非常に参考になると思うが、もう少し登録者が増えるといいと思う。

委員長：それでは、本日の審議は、この程度に留め、これで会議を閉じたいと思う。

次回は、平成26年9月22日（月）午後2時から開催する。

7. その他

- ・次回審議会 平成26年9月22日（月）午後2時から開催予定

8. 閉 会